

天に対する“孝情” 世界の“光”へ

「HJ 天苑 特別修練会」に全世界から二世圏 1200 人

真の父母様の主管のもと、全世界 13 の大陸、65 力国より成和中高・大学生のほか、原理研究会 (CARP) や天宙平和士官学校のリーダーたち約 1200 人が心情の本郷である「HJ天苑」(韓国・清平) に集い、天の父母様と真の父母様に対する「孝情 (HJ)」の伝統を相続する「天地人真の父母様主管 HJ天苑 特別修練会」(2016 GLOBAL TOP GUN YOUTH WORKSHOP) が 8 月 1 日～ 21 日の日程で開催されています。修練会のスローガンは「天に対する『孝情』世界の『光』へ」。真の父母様は、今回の 21 日修練会を通して、未来世代の希望である若者たちが真の父母様と完全に“アライメント”(縦的整列) する中で、真の父母様と同じ夢を持ちながら、世界的な天一国時代にふさわしい指導者に育ててほしいと願われています。

真の父母様が直接主管

2013 年に基元節を宣布されて以来、真の父母様は天一国実体化のための“主人”を養育されることを発表。特に未来世代の人材育成に注力されてきました。具体的には、^{トップガン}圓母平愛財団奨学事業、天宙平和士官学校、TOPGUN 修練会、ハワイ聖和国際修練会、青年学生世界総会、クレインズクラブ、天一国青年宣教師プログラムなどを通して、これまでに合計 11,000 人を直接的に教育。この度の 21 日修練会を合わせると総数は 12,000 人を超えます。

今回の 21 日間の修練日程は、大きく 3 段階に区分できます。

第 1 段階は、国際的な班編成で真の父母様の精誠が込められた韓国国内の聖地を巡礼。真の父母様の生涯路程の本質的な価値を知り、その心情を体恤しながら、真の父母様とアライメントを成すための期間です。同時に国際的なネットワーク、グローバル共同体を形成・体験するという目的もあります。

第 2 段階は、内外両面の力量を強化するための期間。原理のみ言、生涯路程の学習を軸に、真のご家庭による特別講話、天一国三大經典の訓誥、純潔・祝福教育、未来設計進路コンサルティング、体育祭、



イムジンガン
臨津江・統一展望台訪問などが予定されています。期間中、特別に天正宮博物館を訪問し、本郷苑参拝や真の父母様直接教育の機会も準備されています。

第 3 段階では、聖和 4 周年記念行事参加、清平大役事参加、そして自発的な信仰の出発と決断のために、聖潔式 (天一国成人式) も企画されています。

“皆さんが夢を育むため努力する全ての道に、真の父母様が共にある”

8 月 1 日の開会式で、真のお母様は全世界から集まった修練生に対し、以下のように祝福のみ言を贈

られました (一部抜粋)。

「皆さんは皆さんの父母を通して、二代三代圏にいる子女たちです。祝福の子女たちです。真の父母様の管理圏にいる皆さんです。……皆さんの夢が真の父母様の夢と、天の父母様の夢と一致し、真の父母様から新しい時代、新しい歴史の天一国の真の子女、真の民として、皆さんを通して、父母様が地上におられるこの時に、全世界 73 億人類の巨大な群れの前に、皆さんが生きた証人として、生きた歴史の主人公として彼らを全て天の父母様の懐に、真の父母様の懐に導き、祝福してあげる皆さんとなることを

心からお願いします。

皆さんは歴史上、最高です。皆さんがいて、真の父母は幸せです。私は皆さんを誇りたい。皆さんが皆さんの夢を育むために努力する全ての道に、真の父母様の祝福と愛がいつも共にあるということを忘れないでください」

全世界から集った二世圏 1200 余名は、真の父母様から溢れんばかりの真の愛を受け、HJ 天苑で天に対する「孝情」の伝統精神を相続し、創造主天の父母様に似た、真の愛を実践する天一国の真の主人になることを目指して今日も前進しています。

73 億人類を天の祝福に導く歴史の主人公となれ



以下のみ言は 8 月 1 日、真のお母様が「天地人真の父母様主管 HJ天苑 特別修練会」開会式で語られた内容を翻訳し、一部を抜粋・整理したものです。

(文責：広報局)

* * *

本当に紆余曲折の多い蕩滅復帰摂理は、平坦ではありません。1 から 10 まで闘って勝利しなければならない今日の世界で、民主や共産が対決する状況のなかで、武器を持って戦争を起こして全ての覇権を握るのではなく、霊的な実体生活における蕩滅復帰路程を歩むには、言葉に表すことのできない痛みや苦痛がありました。

6000 年間、神様が墮落した人間を探し出されるその道は、真の父母様を通して感じさせ、見せてあげたその何倍もの苦痛の道だったのです。そうであるので、真の父母様は全ての困難を全て自分で蕩滅し、ただ神様の前に喜びと頌栄をお捧げしようとしてされました。誰もそのような悪条件の難しい環境では、神様との心情世界の一致を（成すことはできません）。そのような環境でも神様を慰らし、地上の全てのことは真の父母である私が全て蕩滅し、今日の 73 億にもなる人類をどうやったら全て目覚めさせることができるかを考えてきたので

す。今日全世界で起こっている人種問題、宗教問題、国土問題などの全ての難しい問題はもちろん、人間の無知によって地球が病にかかっている今日の現状を予め予測された父母様は、未来の準備のために多くの摂理歴史を導いてくれました。

これから直面するであろう未来の食糧問題を解決するため、海をよく管理して人類の食糧問題を解決されるために多くの投資と努力を惜しまなかったのですが、それに対する結果において、ついでにこなければならぬ、支えなければならぬ子女たちが無知であり、狭い視野で、未来を考えることのできない判断によって、多くの錯誤があったことも事実です。

私達の夢は人類一大家族

しかし私は今日皆さんを見て（思うのは）、天の父母様の夢、真の父母様の夢、私達みんなの夢は人類一大家族ということ。今日の世界は 200 余りの国になりました。UN（国連）はこの問題を解決するために 70 年以上努力してきましたが、その道筋をつかめていません。

すべての国が一つにならなければならないのですが、一つにまとまるためにはひとつの目標へと向かっていかなければならないのに、その目標がありません。大きい国は大きい国なりに、恵まれた国は恵まれた国なりに、より多くを欲しがります。今日の世界情勢は、ヨーロッパもそうですし、どの国も自分の国益を考えます。

神様が苦労して 2000 年間キリスト教文化を率いてこられながら、民主主義を誕生させたのは、神様が真の父母時代に、世界を一つに結ぼうとされる、そのための苦労であり努力だったのに、最初は少しくまいていてるかと思えば、今日の世界情

勢を見ると、民主世界の中心だというアメリカもやはり多くの自国の問題が現れてくるので、それを解決する方案もないまま、徐々に隣人のためや、世界のために考えることが少なくなっているではありませんか。

だからお父様は 1972 年にアメリカで（始めた）「科学の統一に関する国際会議」を通して人類が行くべき方向をリードしてされました。最初にアメリカに行かれた動機が、神様が 200 年間準備してこられたアメリカがその本質を無くしていつているので、お父様は「私はアメリカが病気にかかったから医者として来た。アメリカで火事が起きたから消防士として来た」とおっしゃりながら、アメリカを啓蒙されました。

お父様を尊敬したのは多くの寂しい人たちでした。しかしその時、共産化（への動き）は世界の 3 分の 2 まで進んでいました。アメリカが本来の使命を忘却し、共産化される岐路にいたのです。そのような状況でアメリカの目を覚まし、アメリカを生かしたメシヤ、真の父母をアメリカは結果的に歓迎する立場ではありませんでした。アメリカがこれから世界の前に、真の父母様の前に、本来の祝福された位置に立ち帰ることが出来なくなったとしたら、どうなるのかということ、私たちは歴史を通して、私たちが直面している世界情勢を見て知ることができるはず。分かりましたか？

“皆さんは歴史上、最高です”

皆さんは大部分が二世、三世だと思うのですが、真の父母を置いて 4 代圏が、遠くない未来に 5 代、6 代、7 代となっていくとき、真のお母様が地上にいますか？

皆さんは皆さんの父母を通して、2 代 3 代圏にいる子女たちです。祝福の子女たちです。真の父母様の管理圏にいる皆さんです。そうですか？（はい）

真の父母様と同世代圏で、皆さんの夢が真の父母様の夢と、天の父母様の夢と一致し、真の父母様から新しい時代、新しい歴史の天一国の真の子女、真の民として、皆さんを通して、父母様が地上におられるこの時に、全世界 73 億の人類の巨大な群れの前に、皆さんが生きた証人として、生きた歴史の主人公として、彼らを全て天の父母様の懐に、真の父母様の懐に導き、祝福してあげる皆さんとなることを心からお願いします。

皆さんは歴史上、最高です。皆さんがいて、真の父母は幸せです。私は皆さんを誇りたいのです。皆さんが皆さんの夢を育むために努力する全ての道に、真の父母様の祝福と愛がいつも共にあるということを忘れないください。



天の運勢を、出会う全ての人々に伝えよう

宋総会長が豊中家庭教会で献堂記念礼拝



①記念説教を行う宋総会長
②宋総会長の説教を聴く教会員
③教会看板の除幕式
④会場を盛り上げた青年のパフォーマンス

ソヨンチョン
宋龍天・全国祝福家庭総連合会総会長は7月末、東大阪教区（花園、八尾各家庭教会）や南大阪教区（岸和田、堺西各家庭教会）、西大阪教区（豊中家庭教会）などを訪れ、真の父母様の愛とみ言を届けました。今回はその中から、豊中家庭教会の献堂式の様子を紹介します。

7月30日、豊中家庭教会の献堂式が行われ、250人以上が参加しました。食口たちは指折り数えながらこの日のために精誠を捧げ続けてきたので、真の父母様の代身として宋総会長をお迎えすることができ、献堂の感動と喜びもひとしおでした。

教会献堂にあたっては、壮年・婦人はもちろんのこと、青年たちもボランティアで作業に協力。献堂式当日も、婦人代表のピアノ演奏と共に青年の歌やバンドが会場を盛り上げ、天に対する感謝と喜びを表現しました。

宋総会長は記念説教の中で、真のお父様が「夢は必ずや実現する」と言われた時に宋総会長に下さったネクタイのエピソードを紹介したうえで、「祝福家庭として

為に生きる生活を実践し、まずは自分の家庭から夫婦仲良く、勝利できるよう努力しましょう。……天の父母様はこの時間、豊中家庭教会のすべての食口たちに天の運勢を相続してくださいました。皆さんはこれから、その天運と共に歩み、誰に会ってもその運勢を伝えてください」と強調。豊中家庭教会の新しい出発にふさわしいメッセージに、参加者全員が強く感動しました。

最後に、宋総会長は説教の中のお父様とのエピソードのごとく、自らが着けていたネクタイを姜熙満^{カンヒマン}教会長にプレゼント。食口たちは真のお父様からの贈り物だと実感すると共に、神氏族メシヤ勝利と救国救世基盤造成に対する決意を新たにしました。

参加者からは、「昨年教会移転のことを聞いた時は本当にできるのかと思っていましたが、きょうそれが現実となり、感無量です。祝福家庭として歩み始めたばかりの私達ですが、（宋総会長のメッセージにあったように）主人とともに為に生きる生活を心がけ、歩いていきたいと思えます」などの感想が寄せられました。

氏族圏・友人知人に勇気もってみ言を伝えよう！

徳野会長が一心、東京同胞、孝成家庭教会を訪問



①説教を行う徳野会長 ②孝成家庭教会の食口たち ③徳野会長の説教を聴く青年メンバー ④美しい歌声を披露する聖歌隊

7月末から8月始めにかけて、徳野英治会長は西北東京・一心家庭教会（7月27日）、東東京・東京同胞家庭教会（同30日）、南東京・孝成家庭教会（同31日）などを巡回、集まった教会員にいまの“時”のメッセージを贈りました。今回は、孝成家庭教会の特別礼拝の様子を紹介します。

7月31日、孝成家庭教会（川崎市）に徳野英治会長ご夫妻を迎えて特別礼拝が行われました。

徳野会長は説教の中で、最近の真のお母様のみ言やご様子を語りながら、「天一国4大聖物を授かり、悔い改め、再出発し、ご恩返しをしましょう！」と強調。そのうえで、救国救世運動を通して、2020年までに国に影響を与える基盤をつくり、神氏族メシヤ活動を勝利するよう参加者を激励しました。

特に氏族伝道に関して、徳野会長は「氏族圏、友人・知人に勇気と決意をもって証しをしましょう。み言を伝えなければなりません。きょうを氏族伝道の出発の日

しましょう！」と呼び掛けました。

そのうえで徳野会長は、故郷・石川県で親族に家庭連合の信仰を持っていることを証し、地元の同窓会では、自らが家庭連合会長であると表明したことを紹介。それがきっかけで同窓生の一人が祝福結婚を希望して地元教会で受講を始め、現在「墮落論」まで受講を終えていることを伝えると、会場は大きな拍手に包まれました。

孝成家庭教会からは、寺田直樹青年部長が同家庭教会と南東京教区「渋谷ミッションセンター」を中心とした伝道状況について報告。信仰二世・祝福二世の再復帰や教育が増加していることなどを紹介しました。

さらに、徳野会長は「孝成家庭教会への願い」として、①CARPを支え将来の統一運動リーダーの輩出に貢献②模範的な国際祝福家庭を輩出③養子を捧げる家庭を多く輩出——の3点を挙げました。

徳野会長の説教を受け、参加者たちは全国の先頭に立って歩む孝成家庭教会となろうと決意を新たにしました。

平和の願いを込めて 自転車で日本縦断

“PEACE ROAD in Japan” 各地で開催中



「文鮮明 天地人真の父母 天宙聖和4周年」を記念し、日本各地を自転車などで走行し、韓半島の平和的統一や世界平和実現への思いを繋ぐ市民参加プロジェクト「PEACE ROAD 2016 in Japan」(主催・同実行委員会)。6月25日に北海道・稚内を出発して以降、多くのライダーが平和への願いをペダルに込めて日本各地を駆け巡っています。

7月18日、東北6県では総計3300キロ走破を目指して宮城県栗原市の大林寺を出発。大林寺は、韓国の英雄、安重根と親交のあった千葉十七の記念碑がある場所です。

同24日には、青年たちが仙台市の青葉城から「白石・38度線通過基点地」のある白石市の日韓友好記念碑まで走破。この記念碑は、2001年にJR新大久保駅(東京・新宿)でホームに落ちた男性を助けようとして命を落とした韓国人留学生、李秀賢さんの勇気を称えて建てられたものです。同30日には、宮城県内で1000キロの縦走完了を記念する行事が仙台・錦町公園で行われ、地元有識者など約200人が集まりました。

新潟県では同23日から26日にかけて、山形との県

境から新潟にある38度線を通して、糸魚川市まで縦断しました。38度線セレモニーでは韓国領事を迎え、南北統一を共に祈願する場となりました。

東京・渋谷の会場では同27日、首都圏出発式が行われ、同中央実行委員会の宋龍天、徳野英治両常任顧問が講演しました。

沖縄県では同25日、7人のライダーが辺戸岬から平和記念公園をめざして走りました。

続く九州では、同26日から29日にかけて、鹿児島県(佐多岬~伊佐市)、熊本県(水俣市~荒尾市)、大分県大分市~福岡県久留米市などを走破。その様子は地元メディアでも紹介されました。

同30日、大阪府泉大津市では「PEACE ROAD 2016 in OSAKA & WAKAYAMA」が開催。地元議員や領事館関係者をはじめ1300人が参加するなか、宋龍天常任顧問が基調講演を行いました。

同31日、愛知県では17人のライダーが各支部を出発し、岡崎市の龍城神社に向かって走りました。このイベントは地元の新聞で告知されたため、多くの市民がライダーに声援を送っていました。



①新潟県新発田市の「道の駅・加治川」で行われた38度線セレモニーに集まった人々 ②日本海をバックに疾走するライダーたち(新潟県) ③宮城県栗原市の大林寺にある安重根の記念碑前で ④首都圏出発式で大会旗にサインする徳野常任顧問(左)と宋常任顧問ご夫妻 ⑤沖縄・平和記念公園に到着したライダー ⑥“本土最南端”の佐多岬(鹿児島県)に集まったライダーと支援者 ⑦開聞岳と錦江湾を背景に走るライダー(鹿児島県) ⑧熊本県益城町役場前に集まった青年ライダー ⑨復興の折りを込めて熊本の被災地を走るライダー ⑩大阪・泉大津で行われた大会 ⑪愛知・豊橋支部を出発するライダー ⑫徳川家康などを祀る「龍城神社」に集結した東愛知支部のライダーたち

真の父母様の愛と許しを受けて再出発

各地で「天一国 4 大聖物伝授及び聖酒式」



真のお母様の「永遠の本郷苑に行くことができる影のない、一点もサタン圏内の痕跡がない真の子女の姿になるように」という祈りとともに、全世界で出発した40日特別精誠。7月22日に40日期間が終わって以降、全国各地の教会で「天一国 4 大聖物伝授及び聖酒式」が行なわれています。

40日期間が終わって最初の日曜日を迎えた同24日、東京・高田馬場の新宿家庭教会では成河鐘東京教区長ご夫妻を主礼として、約260人の祝福家庭が式典に参加しました。

式典では、徳野英治会長による「天一国聖物に対する説明」の映像を視聴したあと、成教区長が聖酒式の意義を説明。続いて、厳かに聖酒儀式と聖物伝授式が行われました。

最後に映像を通して、真のお母様の愛と許しの祝祷をいただき、参加者は新しく生まれ変わって再出発しました。

①映像を通して真のお母様の祝祷を受けた
②4大聖物の意義を説明する成教区長
③聖酒式を行う祝福家庭
④天一国聖燭を相續する代表家庭

【参加者の感想】

■最後の真のお母様の祝祷を通して、お母様の深刻なご決意、73億人類を救いたいという願いを再度確認することができました。観念ではなく日々の生活のなかで具体的に天を愛し人を愛し万物を愛し、生涯をかけて真の父母様に似た者となっていきたいと心から思いました。(壮年食口)

■「今回変わらなければ、自分は絶対ご父母様が願われるような姿にはなれないだろう」と、ものすごく切実に感じています。「変わりたい」という思いを強くできたという面でも、40日間の特別精誠期間を頂いたことが本当に感謝でした。(婦人食口)

■真の父母様の並々ならぬ犠牲の上に受けた今回の恩恵であるということ、時間が経てば経つほど実感しています。(婦人食口)

“家庭連合時代は子女の責任分担時代”

「第26回七・一節及び第20回七・八節」敬礼式



①敬礼式の参加者で記念撮影
②記念説教を行う宋総会長
③激励の辞を述べる徳野会長
④名節を祝賀するケーキカット



8月3日(天暦7月1日)午前7時から、東京・渋谷の教会本部礼拝堂で、第26回「七・一節(神様祝福永遠勝利宣言)」と第20回「七・八節(天地父母宇宙安息圏宣言)」の敬礼式が行われ、多くの教会員が集まりました。

掘正一南東京教区長の司会で始まった式典は、主礼の宋龍天・全国祝福家庭連合会総会長ご夫妻による聖燭点火、敬拝、家庭盟誓の唱和の後、田中富広副会長が代表報告祈禱を行いました。

ケーキカットに続き、徳野英治会長が激励の辞を述べ、①子女の責任分担と神氏族メシヤ②名称変更の意義③訓読生活と祈禱条件——の3点を強調しました。

天一国経典『真の父母経』の訓読の後、宋龍天総会長が登壇、記念説教を行いました。

その中で宋総会長は「名節は真の父母様の戦勝記録」と称賛した上で、今回の「七・一節」(1991年)と「七・八節」(1997年)の意義について、以下のように説明しました。

「1994年、家庭連合の出発と共に、真の父母様のみ

言が変わりました。統一教会時代は個人の時代。神様を中心としてアベルと一つになり、自己分別を通してサタン世界を生き残る。定着や安着などあり得ない、正にジブシーのような時代でした。

成約時代を迎え、家庭連合時代は家庭中心の時代。本然的愛の神様、心情の神様に侍り、三代圏の安息をめざす時代となりました。完成期は、真の父母様が行かれた道を、父母様の心情と一つになり、夫婦一体、親子一体となって越えていくのです。

6000年の蕩滅復帰摂理を勝利した土台の上で、神様祝福永遠勝利が宣布されました。父母の責任時代が終わりを告げ、子女の責任分担時代と共に、家庭連合時代が到来したのです」

最後に宋総会長は、2020年までの摂理後半路程の出発を促しながら、「個体目的」としての神氏族メシヤ、「全体目的」としての母の国・日本の救国救世基盤勝利を成し遂げようと参加者を鼓舞しました。

敬礼式は、主礼による祝祷と全体祈禱の後、南東京教区の高澤正紀副教会長の億萬歳四唱で終了しました。

鳥取、岡山などで自叙伝書写の集い

岡山家庭教会では 1500 人以上が参加



①岡山家庭教会の書写礼拝で ②講話する浅川先生（鳥取家庭教会） ③青年部によるダンス（岡山家庭教会） ④書写フェスティバルの抽選会の一コマ（倉吉家庭教会）

7月28日、鳥取教区の2つの家庭教会で自叙伝書写のイベントが開かれました。鳥取家庭教会では「自叙伝書写奉納式」が行われ、新規30人を含む547人が参加。浅川勇男先生は「平和を愛する世界人として生まれ変わる」と題して、長崎で被爆した医学博士であり随筆家の永井隆氏の人生を紹介しながら、平和の為、人の為に生きることの素晴らしさを訴えました。

鳥取県倉吉市内の会場では倉吉家庭教会の主催で「心の書写フェスティバル in 倉吉」が開催され、約500人が集まりました。初めての参加者からは「（浅川先生の講話は）普段では聞けない内容で、もっと多くの方が聴くことができたら、最近起こっている嫌な事件も無くなるはず」といった感想が寄せられました。

31日、岡山家庭教会は献堂5周年を記念して「1500名天運相続!大感謝書写礼拝」を開催。浅川先生を迎えて3ラウンドに分けて書写礼拝を行い、合計1530人が参加しました。

午前10時からの部では、シンガーソングライターの

演奏が会場を盛り上げた後、浅川先生が講演。大抽選会を挟んでフィナーレでは壮年バンドが勇ましい歌声を披露し、天運の飴まきをして閉会しました。

午後2時30分からの部は、オープニングで韓国人歌手によるK-POPの熱唱が観客を魅了。浅川先生の講演から盛大な聖歌隊のコーラスへと続いた後、青年部のメンバーと韓国人歌手によるダンスのコラボレーションが実現し、会場が沸きました。

夜8時からの部は、青年バンドの演奏と天父報恩鼓の華麗な演奏からスタート。青年による書写の証しや講演の後、大抽選会や青年部のダンスで大盛況となり、特に青年たちが箒を使ったユニークな踊りを披露し、会場の熱狂はピークに達しました。

最大収容550人の礼拝堂が3ラウンドとも満員になるなど、教会単独で初めて1500人礼拝を達成。岡山家庭教会は、この伝道の機運によって2000人、3000人と礼拝参加者を拡大させていく方針です。

愛媛、島根で「天宙既成祝福式」

7月31日、愛媛教区と島根教区で「2017天地人真の父母 天宙既成祝福式」が開催され、新たに祝福家庭40組が誕生しました。

松山家庭教会礼拝堂で開かれた祝福式では、全柱奉愛媛教区長ご夫妻の主礼のもと、既成祝福4家庭と独身祝福22人の26組が参席。

祝福式に臨む既成家庭の中には、不安が顔に表れていた新郎もいましたが、祝福式が終わって食事会をするときには緊張がほぐれて笑顔になっていました。

島根教区松江家庭教会主催による祝福式は松江市内のホテルで開催。既成6組、独身8人の合計14組が天の祝福の恩恵に与りました。

島根教区では、裴景燦教区長が掲げる「島根4300の夢」(島根教区4300人の基盤造成)のスローガンのもと、毎日の早朝聖地祈祷の精誠を土台としながら、祝福の取り組みを推進。今回は、教会員の両親や兄夫婦などが導かれたケースが多く、日頃の

神氏族メシヤ活動が実った形です。

会場では、教会員の心のこもったおもてなしに新郎新婦が感動し、晴れやかなカップルの仲睦まじい姿とともに、喜びの雰囲気に包まれた式典となりました。



祝福を受けるカップル

滋賀、大分で「親セミナー」開催

7月30日、滋賀家庭教会に多田聡夫・本部家庭教育部長を迎え、「第2回滋賀教区 親セミナー」が開催され、参加者80人が親としての在り方と成長について熱心に学びました。

多田部長は第一講の「家庭時代への意識改革」の講義の中で、他の教会の証しを交えながら、家庭連合時代になった今、私たちの姿勢が個人から家庭へシフトしなければならない時であることを強調。参加者は大いに刺激を受けました。

また多田部長は、このほど発表された青年祝福候補者に対する教育制度の改定についても解説。参加者は、子女たちを祝福に導くベースとなる家庭教育の実践について学びを深め、親としての責任を果たしていくことを決意する場となりました。

同31日、大分教区でも「良き親になる為のセミナー」が開催され、100人を超える父母が参加しました。



多田部長（顔写真）の講義を聴く参加者（滋賀教区）